

# プレゼン例 2

# 四診

2

望診) もともと顔色はよい 中肉中背 (身長157cm、体重53kg) ①

舌：淡紅②

聞診) 声力はしっかりしている。咳、喘鳴はない。③

問診) 2週間くらい前から同じクラスで発熱者が多数いた。④

突然の項からの悪寒と発熱、その後の身体痛、四肢関節痛。⑤

項背部の凝り。⑥ 自汗はない。⑦

咳、喘鳴、鼻水、咽頭痛はない。排尿痛はない。嘔吐、下痢もない。⑧

生来健康。日頃は頻尿や夜間尿もなく排尿は良好。便通も良好。⑨

足腰は丈夫。皮膚に皮疹や掻痒、乾燥などの症状はない。⑩

暑がりでも寒がりや冷え性でもない。⑪

切診) 脈：浮、緊 ⑫ 腹：力やや強 ⑬

# 弁証

- ▶ 八綱弁証 : 表 寒 實
- ▶ 病因弁証
- ▶ 六淫 (外邪) : 風 寒
- ▶ 七情 : —
- ▶ 病理產物 : —
- ▶ 氣血 (津液) 弁証 : —
- ▶ 臟腑弁証 : —
- ▶ 經絡弁証 : 太陽膀胱經經輸不利

# 外感病初期の鑑別

中医弁証学より抜粋

## 六経弁証：太陽病

### 風寒邪 → 表

表風寒証：太陽病中風、太陽病傷寒・・・

衛気営血弁証：衛分証

### 温邪 → 衛分（表）

表温（表熱）証：風温傷衛、暑温傷衛、湿温鬱衛、秋燥傷衛

三焦弁証：上焦病

### 温邪 → 肺衛、肺（手太陰肺経）・・・

邪襲肺衛、熱在胸膈、熱邪壅肺、温毒上壅、寒湿傷表、  
燥熱傷肺、暑湿犯肺、肺胃傷津・・・

# 太陽病の鑑別

中医弁証学、中医臨床のための方剤学より抜粋

## 太陽病

風寒邪→表 表風寒証：太陽病中風、太陽病傷寒

悪寒、発熱、頭痛、脈浮

太陽病中風（表虚）

+ 白汗、悪風、脈緩

桂枝湯、桂枝加葛根湯、桂枝加厚朴杏子湯、桂枝加附子湯・・・

## 太陽病傷寒（表実）

+ 無汗、身体痛、脈緊

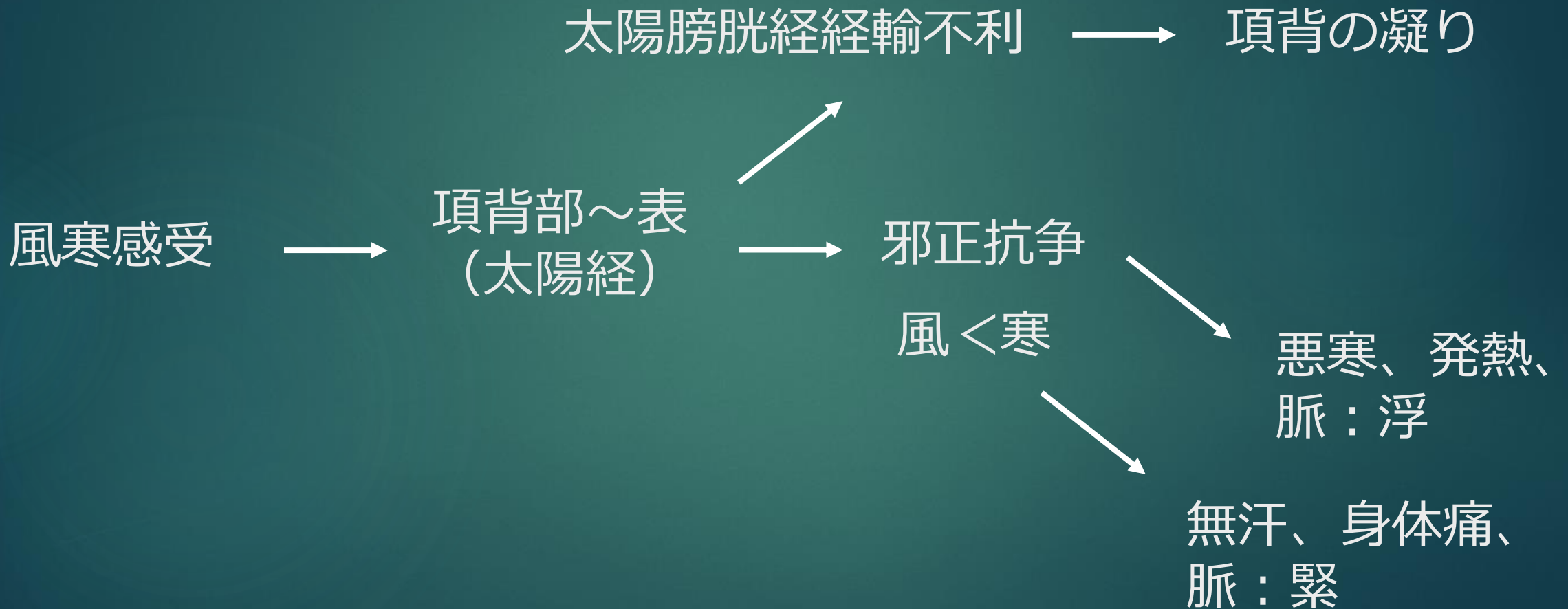
麻黄湯：太陽傷寒、

葛根湯：太陽傷寒・経輸不利、

小青竜湯：表寒内飲、

大青竜湯：表寒内熱

# 病機



# 弁証論治

- ▶ 八綱弁証 : 表 寒 実
- ▶ 病因弁証
- ▶ 六淫 (外邪) : 風 寒
- ▶ 経絡弁証 : 太陽膀胱経経輸不利
- ▶ 六経弁証 : 太陽病傷寒
- ▶ 病機 : シェーマ : スライド⑬
- ▶ 証 : 表風寒実・太陽病傷寒・太陽膀胱経経輸不利
- ▶ 治法 : 辛温解表・祛風散寒・舒筋
- ▶ 方剤 : 葛根湯

# まとめ

- ▶ 本症を中医学的に外感病と診断し、これを弁証論治によって鑑別した。
- ▶ 本症の八綱弁証は、表寒実である。
- ▶ 本症の六淫弁証は、風寒である。
- ▶ したがって、六経弁証をおこない、太陽病・傷寒とした。
- ▶ 加えて、太陽膀胱経経輸不利を認めた。
- ▶ 以上より、証は、表風寒実・太陽病傷寒・太陽経経輸不利とし、葛根湯を選択した。
- ▶ 本症例が中肉中背の青年で基礎疾患がないことから、1日標準量を分3で処方したが、翌日になっても発熱が続くときは、診断と治療の再検討を目的に再受診するよう指示した。



# 参考文献

- ▶ 中国傷寒論解説 劉 渡船
- ▶ 中医弁証学 柯雪帆
- ▶ 中医臨床のための方剤学 神戸中医学研究会